

# Campus News

静岡理科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2014

1

Vol.43

## 特集

- やらまいか創造工学センター開所式の報告
- 袋井市・静岡県と連携協定締結
- お理工塾応援隊 結成!!
- 高校生ものづくりことづくりプランコンテスト開催



お姉さんが優しく教えてくれたよ。

平成25年8月に、本学にて「お理工塾 夏のわくわく体験工房」を開催しました。参加した小学生は熱心に実験に取り組んでいました。



静岡理科大学

輝く未来へ  
はばたく力を





# 学長挨拶

## 主体的学びの効果

学長 荒木 信幸

昨年6月のある日、物質生命科学科3年のW君を代表とする学生数名が学長室に来て、8月18日に子供たちの科学する心を育てるために「夏のわくわく体験工房」と称する「お理工塾」を開催し、200名ほど集めたい、については、学長に「塾長」になってほしいとの申し入れがあった。学生自身で企画・実行しようとしているイベントであるので、学生の代表が塾長を担うべきであるとして、就任を固辞したが、熱心な申し入れであり、学生の活動の活性化に役に立つのであればとの思いで引き受けた。その時は、200名を集めるのはとても無理であろうと推測し、少しでも応援したい気持ちもあった。

ところが、ふたを開けてみたら720名もの申込者があり、抽選で半分以下の人数に減らすことなど、うれしい悲鳴を上げての対応を強いられた。実行する学生にとって大変であったが、貴重な経験を積んだであろうと推測している。

このお理工塾は、静岡、富士宮、沼津、さらに新設の「やらまいか創造工学センター」においても開催され、大盛況であった。このように学生が自ら企画し、実行するイベントが、女子学生のコミュニティとしての「Rikejo Café」や「キャンパスライフ学生会議」、それに、各クラブなどによって相次いで開催されている。大変うれしい限りである。

これは、本学が進めている「やらまいか教育」の効果が表れ始めているのではないかと一人ほくそ笑んでいるこの頃である。

本学では、平成21年からカリキュラム改革に着手し、「学生自らが主体的に学ぶようにするにはどうすればよいかを追求する」ことを改革の大きな柱に据えた。つまり、教員は一方的に学生に教えるのではなく、学生自身が自ら勉強するように仕向けるにはどうすればよいかを考えながら授業を進めることをお願いしている。

その一つが「やらまいか精神」を育み、自主性と積極性を養う教育プログラムをつくることであった。平成24年度から実行している「新カリ」には、「創造・発見」、「創造演習」など、少人数グループに分かれて、学生が主体となって企画・実行するプロセスを含む「やらまいか科目群」が大きな割合を占めるようになっている。

折しも、12月6日には、「やらまいか創造工学センター」の開所式が執り行われ、学生が主体的に学び・活動する環境が整ってきている事も「ほくそ笑む」理由になっている。

## 遠州灘

近年、海外に留学する学生の数が減っているらしい。これがもし事実であれば少々残念なことだと思う。幸運なことに、私は海外で生活する機会に恵まれた。様々な苦労に直面したが、「言葉の壁」はさほど大きくはなかった。それよりも、異文化の中で自分が「生き残る」ために道を切り開いていくことの方が遥かに困難であった。しかし、そのおかげで、どんな環境でも生き残る術と、困難に立ち向かう度胸を身につけることが出来た。辛かったが、今では数々の試練に感謝している。

今後、学生諸君の活躍の場は、日本に限定されないだろう。「やらまいか精神」に則り、在学中に海外での生活を是非体験し、言語以外のこともたくさん学んでほしいと切に願っている。(K)

# やらまいか創造工学センター 開所式の報告

平成25年12月6日(金)、「やらまいか創造工学センター開所式」を開催いたしました。原田英之 袋井市長をはじめ、近隣自治体、研究機関、教育機関の関係者など総勢70名を超える方々にご出席頂きました。

やらまいか創造工学センター センター長 電気電子工学科 教授 高橋 久

平成25年12月6日に原田英之袋井市長をはじめ、多くのご来賓の方々のご出席のもと、また多くの報道機関の方々にもお越し頂き、やらまいか創造工学センターの開所式を滞りなく挙行了しました。当日は、やらまいか創造工学センターを含むやらまいかエデュケーションサイト全体の見学も行って頂きました。また、やらまいか創造工学センターに導入された機器を使用した実験などのデモンストレーションをお見せし、多くの方々に新しくなったやらまいかエデュケーションサイトの有用性や創造工学センターの役割をアピールしました。

やらまいか創造工学センターは、やらまいかエデュケーションサイトの施設として既設の工作センターなどと連携し、ものづくり教育を通して、創造性豊かで自ら考えてものづくりができる実践的な学生や技術者の育成、学生の課外活動の場として活用し、工学教育の一層の強化を行います。

また、地域産業との連携を図り、国の成長戦略分野を視野に入れ「夢を形に」する工学系重点研究を推進すると共に、未来に向けた先導的な研究開発や産業界に有用な情報発信の拠点化を図って参ります。

皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



技術課 やらまいかエデュケーションサイト担当 課長代理 河野 厚志

やらまいか創造工学センターが平成25年5月に竣工し、同年6月には建設関係者をお招きして竣工式が行われました。また、12月6日には開所式を無事に行うことができました。当日は、公的機関の皆様、施設内研究設備設置にご協力頂いた企業の皆様、金融機関の皆様、教育機関の皆様など幅広い皆様方に本施設を関心深く見学して頂けたことをありがたく思っております。

当センターにおいては、本学の教育研究施設にとどまることなく、地域を含めた共同研究施設として、また、イベント・講座などの開講による一般の方々への開放施設として幅広く活用できるような施設づくりを進めていきたいと考えております。今後も、ご支援、ご協力の程、何卒よろしくお願いたします。

# 袋井市と包括連携協定、 静岡県と研究分野での連携協定を締結

本学では、平成25年6月28日(金)に袋井市と包括連携に関する協定、11月15日(金)には静岡県との研究分野での連携協定を締結しました。今後は、袋井市並びに静岡県との連携をより一層深め、様々な活動を進めてまいります。

## 袋井市との包括連携協定の締結

本学は平成3年4月の開学以来、地元袋井市との間で地域活性化の観点から、様々な分野において連携した取組みを進めてまいりました。

これまでの連携活動を基盤として、さらに充実した取組みを組織的に実現し、本学と袋井市との連携をより一層強固にすることについてお互いが合意をし、包括連携に関する協定を締結しました。

包括連携協定の内容としては、

- (1) 健康づくりの推進
- (2) まちづくり及び地域産業の活性化
- (3) 教育及び人材育成
- (4) 地域防災力の向上
- (5) 環境保全及び共生
- (6) 公共経営及び情報化の推進

の6つの分野を柱としており、お互いの多様なインフラや人的資源等を相互利用し、地域の発展に貢献する事業を協働で展開することとしております。



協定締結後、固い握手を交わす原田英之袋井市長(左)と荒木学長

## 静岡県との研究分野での連携協定の締結

本学と静岡県は、静岡県の産業振興の観点から、研究分野における相互の連携と協力に基づいた数多くの取組みを進めてまいりました。

これまでの連携活動を踏まえ、静岡県における(1)産業界への技術支援、(2)産業界の人材育成を、より一層推進することについてお互いが合意をし、研究分野での連携に関する協定を締結しました。

今後、静岡県が設置する研究機関との情報交換を強化するとともに、本学の「先端機器分析センター」や「やらまいか創造工学センター」を含む「やらまいかエデュケーションサイト(YES)」などを活用した地域企業との共同研究・開発を推進することとしております。



川勝平太知事(前列左から2人目)と荒木学長(同3人目)

# お理工塾応援隊 結成!!

平成25年度に本学学生による「お理工塾応援隊」が結成されました。「理科やものづくり好きの子どもを増やす!」を使命に理科教室やものづくりイベントの企画・運営など様々な活動を行っています。

## お理工塾応援隊の活動報告

お理工塾応援隊 広報担当 **大澤 智** (電気電子工学科2年)

私はお理工塾応援隊の一員として活動しています。お理工塾応援隊とは、近年理科離れが進んでいる中、学校では体験できないような「理科の面白さ」や「ものづくりの楽しさ」を知ってもらうことを目的に、学生主体で子供向けイベント(お理工塾)を企画・運営をする団体です。

8月には静岡市と富士宮市で「夏のおもしろ理科教室」、本学では理科実験とものづくりのイベント「夏のわくわく体験工房」を開催しました。11月末には新設した「やらまいか創造工学センター」を地域の子供たちにお披露目する「やらまいか創造工学センターを探検してみよう!」、12月には沼津で「冬のおもしろ理科教室」を開催しました。どのイベントもたくさんの方にご応募、ご参加をいただきました。

イベントを実施するまでは成功するか不安でしたが、子供たちが驚いたり、喜んだりしている表情を見ることができ、とても嬉しく思いました。今後も、各地で多くの講座を開き、たくさんの子供たちに本学とお理工塾を知ってもらえるように少しずつ規模を大きくしていきたいと考えています。

私は、お理工塾に限らず、より多くの学生が在学中に学生団体に活躍してほしいと思っています。勉強だけでなく、このような活動を行うことによって社会勉強の一環となり、自分を成長させることができると思っています。また、充実した大学生活を送ることができます。

これからの目標は、お理工塾応援隊をより良い組織にしていき、多くの子供たちが理科やものづくりに対して興味や関心を持ち、本学をもっと身近に感じてもらうようにすることです。



## ..... お理工塾イベント一覧 .....

### ① 夏のおもしろ理科教室 in 静岡

#### 低温の世界を体験しよう

講師：物質生命科学科 山崎准教授  
平成25年8月7日(水)  
参加者31名  
会場：静岡北中学校・高等学校

### ② 第1回夏のわくわく体験工房

#### 本学学生、教員による子ども向け理科実験講座 11テーマ

平成25年8月18日(日)  
参加者302名 会場：静岡理科大学

### ③ 夏のおもしろ理科教室 in 富士・富士宮

#### 食べ物のDNAを抽出してみよう!

講師：物質生命科学科 常吉教授、学生サークル生き物係  
平成25年8月21日(水) 参加者29名  
会場：星陵中学校・高等学校

### ④ やらまいか創造工学センターを探検してみよう!

#### 施設探検ツアーとホバークラフト工作講座

平成25年11月30日(土)  
参加者42名  
会場：静岡理科大学

### ⑤ 冬のおもしろ理科教室 in 沼津

#### 目に見えない生き物の力

講師：物質生命科学科 齋藤准教授  
平成25年12月14日(土) 参加者36名  
会場：沼津工業技術支援センター



お理工塾応援隊員の学生が、お理工塾イベント情報や活動の裏側などを発信しています。

お理工塾応援隊ツイッター <https://twitter.com/orikoujuku>

# 高校生ものづくりことづくりプラン コンテストの開催

平成25年12月14日(土)、本学主催「高校生ものづくりことづくりプランコンテスト」の最終審査会を行いました。

本コンテストは「ものづくり」や「ことづくり」に興味や関心のある高校生に「こんなものがあればいい」、「こんなことをやってみたい」、「〇〇を売りだして成功したい」などのアイデア・プランを提案していただくもので、今年度が第一回目の開催となりました。高校生には、考えた商品をどのような場面で使用するのか、販売はどのような場所で行うのか、実現に向けての課題・問題点など、単に商品のアイデアを出すのではなく、実際に世の中で利用してもらうためのプランを発表してもらいました。

最終審査会では5つの商品(プラン)について、発表者の高校生がそれぞれの商品の良さ、今後の展開について熱く語ってくれました。各プランに対し審査員の教員が質問や感想を伝えながら審査を行い、最優秀賞・優秀賞・特別賞を選考しました。最優秀賞には愛知県立田口高校の「**「間伐材の有効利用」～木材燃料「アツマル」の商品化と普及～**」が選ばれました。表彰式では審査副委員長の石田入試広報委員長(電気電子工学科教授)から、高校生の今後の活動に大いに期待すること、大学としても高校生のプランの実現を手助けしていくこと、その意味で高校と本学の連携関係を築いていきたいことなどの講評がありました。

来年度は今年度を上回るプランを提案いただき、より一層盛り上がるコンテストを開催したいと考えております。



愛知県立田口高等学校 林業科

両星 達也、金田 敬士、寺田 美里、深田 佑美

私たちが、この「高校生ものづくりことづくりプランコンテスト」に参加して、最優秀賞を受賞することができ、とても嬉しかったです。



発表前はとても緊張しましたが、楽しんで発表することができたと思います。また、演示では、本当にチェーンソーのエンジンを始動させて行うわけではありませんでしたが、「アツマル」を作る様子を少しでも分かっていただきたと考え、実施しました。質疑応答では、少しつまってしまっただけもありましたが、答えることができて良かったです。

また、他の学校の発表もとてもよい内容で、高校生ならではの発想だと感じました。

この賞に喜ぶだけでなく、「アツマル」を少しでも良くすることと普及させることに力を尽くし、これからも頑張っていきたいと思っています。

## 今回最優秀賞を受賞した「アツマル」とは?

「アツマル」は、間伐材の有効利用を目的に、ヒノキの丸太を利用した木材燃料です。野外でのキャンプなどのアウトドアや災害時に、調理や暖房、照明などに利用できる優れたものです。



### 市民体験入学

8月25日(日)、本学にて「市民体験入学」を開催しました。当日は県内各地から204名が参加されました。全体講義では、国立天文台台長の林正彦氏が「暗黒宇宙の不思議に迫る」と題して講演を行いました。選択講義の座学講座では本学機械工学科の後藤教授、人間情報デザイン学科の奥村准教授が、体験講座では機械工学科の土屋准教授、電気電子工学科の郡教授、物質生命科学科の吉川講師、コンピュータシステム学科の國持准教授、人間情報デザイン学科の今野講師、情報センターの高林、内山職員がそれぞれ講義を行いました。



### オープンカレッジ2013-SIST体験型講座-

9月28日(土)、11月2日(土)の2回に渡り、本学にて「オープンカレッジ2013-SIST体験型講座-」を開催しました。本講座は今年度からスタートしたイベントです。第1回目は本学電気電子工学科の中田講師が「携帯電話・スマートフォン用非常時充電器を作ってみよう」を、第2回目は本学コンピュータシステム学科の松田講師が「『ビッグデータ』について学んでみよう」を行いました。参加者同士の交流もあり、終始笑顔がたえない講座となりました。



### 産学官連携フォーラム

11月26日(火)、浜松市内で「産学官連携フォーラム」を開催しました。当日は約150名の参加者があり、特別講演として公益財団法人全国産業廃棄物連合会専務理事の森谷賢氏が「しぜん・CO<sub>2</sub>・リサイクルそして除染」と題して講演を行いました。

その後、本学教員による研究事例発表やパネル展示による研究紹介も併せて行い、本学における研究成果を広く紹介する機会となりました。



### SISTコロキウム

12月20日(金)、「SISTコロキウム」を開催しました。今年度から開催したイベントでしたが、18名の参加者がありました。話題提供者を本学人間情報デザイン学科の松永講師が務め、「なぜ音痴でも音楽を楽しめるのか」のテーマで参加者とディスカッションを行いました。飲み物を片手に参加者同士の意見交換が行われ、とても有意義な時間となりました。



### 学長杯ソフトボール大会

12月21日(土)、本学グラウンドにて「平成25年度学長杯ソフトボール大会」が開催されました。企画・運営・実施の全てを学生が行い、参加者も約100名にのぼりました。風も強く、寒い一日でしたが、ソフトボール経験者、未経験者ともに思い切り体を動かし、熱い試合を繰り広げていました。参加者同士の交流も深まり、大いに盛り上がった大会となりました。





### 大学誘致を振り返って

日本宇宙少年団袋井分団  
鈴木 政春さん

平成元年、袋井市の市政モニターだった私は、広報ふくろい9月号に「大学の設置に期待する」という題で、「大学の設置は経済効果や社会的、文化的効果及び産業界への技術的な助言や情報提供、産学官民との連携・連帯による文化水準の向上など、袋井にとって大きな可能性を秘めたものと期待しています。」と寄稿しました。

翻って今の理科大学はこれらを着実に進めていると思います。「ものづくりフェスタ」や「各種講座」の開催、私事ですが、たびたび施設をお借りしており、都度、学長や先生方及び職員の皆様の謙虚で親切な対応や、キャンパスの隅々まで行き届いた管理と利用者への気配りを肌で感じ、市や市民との交流を大切にされている思いが伝わってきます。当初の期待通り実行され、市民として大変信頼を寄せるものです。

今後もさらに一步踏み込んだ交流で、双方の糊代をさらに広げながら交流を深めていって欲しいと思います。



### 大学の先生が中学校に登場!!

袋井市立周南中学校 教諭  
田村 響太郎さん

毎年、2学期に静岡理科大学の先生をお招きして理科の授業として、体験型の講義をしていただいています。今年度は山庄司教授の「光る細菌」という内容についてでした。

生徒たちは、目を輝かせて「光る細菌」の実験に取り組んでいました。さらに、他国の子どもたちの生活について説明していただき、日本の子どもたちがいかに恵まれた生活をしているかを実感する機会にもなりました。

生徒の感想は、「理科のおもしろさを改めて感じた」、「どうして菌が光るのか不思議に思った」、「日本という国で過ごせて良かった」というものが多く、中でも「授業をまた受けたい」という感想が一番多く見られました。

身近な大学として、大学の研究の一端に触れることができ、生徒の視野を広げるためにも、とても貴重な体験だと感じています。今後ともどうぞよろしくお願いします。



住友電装株式会社  
小林 利成さん  
(電子工学科第7期卒業生)

際に試作します。自分の手を動かし、物作りをする事は、在学中の経験がとても役に立っています。失敗しても改善案を考え実行する。この繰り返しは、社会人になっても同じです。

学生時代は自分が望めば何でも経験できます。失敗する事を恐れず、新しいことにチャレンジし、悔いの無いよう学生生活を送った事が活きていると思います。チャレンジ精神を忘れず、今後も自動車の安全性能の向上や、より良い交通社会の発展に寄与していきたいと思っています。

## 活躍する卒業生

私の勤務する住友電装株式会社では、主に自動車向けワイヤーハーネス、コネクタ、電装品等の開発・設計・製造を行っています。私は自動車のブレーキシステムの一つであり、ほぼ全ての自動車に標準装備されているABS/ESCシステムに用いられる車輪速センサーの開発・設計を担当しています。お客様に新しい事を提案する事も沢山ありますが、なかなか受け入れてもらえない事が多く、如何に相手に理解してもらい、納得させる事ができるのが重要になっています。在学中に経験した学会での発表や、卒業研究の発表等は、相手にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を養う基礎になったと思います。

また、設計という仕事の中で、自分が設計した製品を実



## 授業科目の紹介



符号・暗号というと難しく聞こえますが、実は日常生活のあらゆる場面で符号や暗号の概念を見かけることがあります。

例えば、ある音楽グループの楽曲の歌詞に「いつもブレーキランプ5回点滅 ア・イ・シ・テルのサイン」というフレーズがあり

ます。これはこの歌詞に出てくる恋人同士にしか意味が分からないものかも知れませんが、これはまさに符号・暗号の実例となっています。このように情報を一定の規則に基づいて他のデータに変換し、情報を第3者に知られることなく、正確に伝えるための技術が符号・暗号理論なのです。

上の例では、狭いグループでの情報のやり取りにしか使うことが出来ませんが、このようなことをもっと一般的に誰でも使えるようなものにするにはどうすれば良いか、より正確に効率良くデータ通信を行うにはどうすれば良いか、より安全な暗号を作るにはどうすれば良いかということを符号・暗号理論の講義で学んでいきます。

担当教員：コンピュータシステム学科 講師 松田 健

# 符号・暗号理論I

## 人間情報デザイン学科 宮岡研究室

# おじゃまします。

「見たもの」が「客観的に存在するもの」とは違って見える錯視という現象は、テレビなどでときどき解説されているので、ご存知の方も多いと思います。この錯覚は、視覚だけでなく触覚でも起こります。宮岡研究室では、現在、触覚の錯覚（「錯触」と言います）について研究しています。平成25年度から3年間で、「錯触の研究」で科学研究費補助金を交付されることになりました。かなり自由に研究できる状況となり、学生諸君も張り切っています。現在は、岡崎市にある自然科学研究機構生理学研究所で磁気共鳴イメージング（MRI）装置を用いて錯触の脳内機構を明らかにする実験を行っています。また、3Dプリンタを購入して錯触刺激を作る実験もはじめます。



研究室訪問

第31回

## 研究室学生からひとこと

### 江塚 駿（人間情報デザイン学科4年）

4年生全員で研究室に集まっては、被験者が休憩時に飲むためのコーヒーを実験前から飲んで、議論したり実験したりしながら研究を進めています。先日は、岡崎市の生理学研究所でfMRI実験に参加しましたが、1回の実験費用が20万円かかると聞いてびっくりしました。3Dプリンタが来たらどんな錯触刺激を作ろうか今から楽しみです。

### 宮岡 徹先生のプロフィール

東京都出身。博士（医学）。大阪大学および大阪大学大学院で学びました。浜松医科大学、大阪大学を経て、静岡理工科大学開学時に助教授として本学に赴任しました。平成15年度より教授になり現在に至っています。大学院までは聴覚の研究をしていましたが、浜松医大在職時から触覚の研究に移り、現在まで触覚情報処理機構の研究を続けています。

# スポットライト がんばれ！理工科大生



お理工塾応援隊 隊長  
**渡辺 富夫**  
(物質生命科学科3年)

大学生活も、残すところ1年です。思い返せばこの3年間で、様々な経験をしてきました。

2年次までを振り返ると、クラブ連合委員長や、サークルの部長等、多くの役職に就いてきました。それらは責任が小さいとはいえものの、誰かから何かを指摘される事はありませんでした。その中で手に入れたものは、一言でいえば度胸です。他にも色々とはありますが、いずれも「個人」の成長へと繋がるものでした。

今年度から関わることとなった、子供たちに理科の楽しさを伝える「お理工塾」の活動を企画・運営する「お理工塾応援隊」は、2年次までに関わった組織とは大きく異なるものでした。活動の内容は学生レベルであるものの、その業務内容から社会人と同じ目線で仕事をしなければならないのです。社会人としての仕事のスピード、大学の印象を背負う責任の重さ、なにより他者を見ることの大切さを学びました。これは、以前に得たものとは違い、周囲と共に成長することへ繋がっています。今まで全て自分でやっていた事も、人に頼り、任せる事ができるようになりました。

4年間の大学生活で何を心得、どのように成長できるかは人によって違うと思います。今後の就職活動や卒業研究を通して、更なる成長をしたと自信を持って言えるように、4年目の大学生活を送りたいと思います。

## 学部長特別表彰・学生部長表彰

1月14日(火)、15日(水)に、優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生を表彰する「学部長特別表彰・学生部長表彰」を行いました。受賞者は次の通りです。

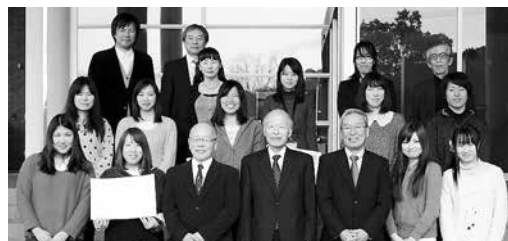
### 学部長特別表彰

#### ●個人 お理工塾応援隊発足メンバー

渡辺 富夫 (物質生命科学科3年)  
松尾 雅夫 (物質生命科学科3年)  
村松 由香利 (物質生命科学科3年)  
一之瀬 和弥 (物質生命科学科3年)  
藤田 大貴 (物質生命科学科3年)  
大坪 恭平 (機械工学科2年)  
沖 彩也子 (機械工学科2年)  
木野 達也 (電気電子工学科2年)  
山内 智仁 (電気電子工学科2年)  
大 澤 智 (電気電子工学科2年)  
玉田 真子 (物質生命科学科2年)  
渡辺 涼裕 (物質生命科学科2年)  
池田 清花 (総合情報学部1年)  
本間 大智 (物質生命科学科1年)  
高塚 裕規 (電気電子工学科1年)



#### ●団体 Rikejo café



### 学生部長表彰

- 個人 **林 誠一郎** (総合情報学部1年)  
第24回全日本拳法道選手権大会 (新人の部) 準優勝
- 高部 大暉** (機械工学科3年)  
東海地区大学野球連盟秋季リーグ戦 ベストナイン捕手

- 団体 **弓道部**  
第57回東海学生弓道秋季リーグ戦 男子V部Bブロック 優勝



## サークル紹介

### フットサルサークル 部長 田中 悠登 (人間情報デザイン学科2年)

フットサルサークルは、現在39人が所属し、火曜日と木曜日にテニスコートで活動しています。大会や練習試合にも参加し、日々自分たちの能力を向上させるようにしています。自分たちは、負けず嫌いの集まりのため、先輩後輩関係なく問題を指摘し合っています。最近では、大学リーグに参加し、自分たちの練習の成果を出そうとしていますが、思うような成績は残せていません。そのため、試合後や練習後にはミーティングを開き、反省点を考えるようにしています。反省して出たことを練習で取り組むようにしています。

フットサルサークルは仲の良いサークルのため、長期の休みには、バーベキューやキャンプを行い、楽し

いサークルとなっています。

今後の大会も、一生懸命取り組み、結果を残せるように頑張ります。



## Rikejo café プロジェクトスタート!!



本学では、女子学生のキャンパスライフ向上のため、学生によるRikejo caféプロジェクトがスタートし、本学OGを招いた座談会、企業の第一線で活躍する女性を招いた講演会、オープンキャンパスでの相談コーナー、プロモーションビデオの製作など様々なことに挑戦しています。

平成25年12月17日(火)には本学食堂でRikejo café主催「クリスマス会」を開催しました。ケーキやドリンクを片手に、パーティー形式で活動実施報告や、今後開催する予定の行事紹介をし、また、「共有」「仲間意識」を得るためのグループディスカッションも行いました。



### 同窓会 だより

#### ホームカミングデーの開催

10月27日(日)に「第13回ホームカミングデー」を開催しました。

本年度は、前日までの台風接近の影響により大学祭が2日間とも中止となり、13回目にして初めてホームカミングデー単独開催となりました。そのような状況にも関わらず、当日は、台風一過の快晴の中、同窓生をはじめとして、ご家族等約250名の皆さんが集まりました。大学祭の中止の影響で出席者の減少が懸念されましたが、結果として多数の参加者があり、ホームカミングデーが同窓会のイベントとして定着していることを実感する機会にもなりました。

本年度もメインイベントの「〇×クイズ」、「大抽選会」共に、大盛況でした。また、参加者全員で学歌の斉唱をし、久しぶりに大学生気分を満喫する機会になったと思います。最後に、ご多忙の中にも関わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



#### 同窓会ホームページの開設

平成24年に、同窓会ホームページを開設し、多くの方にご覧頂いております。更に本年度からは専用の「FaceBook」ページも立ち上げました。同窓会ホームページよりリンクされておりますので、是非御覧いただき、同窓生間の交流の手段としてもご利用ください。また、是非「いいね!」をよろしく願いたします。(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>)



### 後援会 だより

#### 個別面談の開催

10月26日(土)に予定していた「父母懇談会」は台風の影響により中止いたしました。個別面談は1日延期して翌27日(日)に開催いたしました。参加を希望された85名の保護者の皆様が来学し、助言教員からの説明に熱心に耳を傾けられていました。また、本学にとっても保護者の皆様からご意見を伺うことができ、貴重な時間となりました。

## 学生フォーミュラ大会を振り返って

自動車部 (SIST フォーミュラプロジェクト) 部長 村田 晃弘 (機械工学科 4年)

### ★学生フォーミュラ大会(EV部門)優勝

「第11回全日本学生フォーミュラ大会」が平成25年9月3日(火)～7日(土)にエコパにて開催されました。今大会もエンジン車、電気自動車の2台体制での出場を果たしました。今大会から電気自動車部門が正式に大会種目となり、見事、第一回優勝校として結果を残すことができました。しかし、最終種目であるエンデュランス競技(指定されたコースを周数し、走行性能や耐久性能を競う)においてリタイヤしてしまい、悔いの残る結果となりました。

今大会に向けて特に力を入れた改善箇所は、前回大会よりも2カ月早く車両を完成させ、テスト走行に力を入れたことです。結果、恐れていた大きな故障を引きずることなく大会に臨むことができました。また、決して楽



な活動ではないので、過去には活動を途中で抜けてしまうメンバーが多くいました。今年度は少しでも皆が楽しく活動できるよう考慮したため、31人と過去最大の人数で大会に臨むことができました。

後輩へのアドバイスですが、今年度は大きなトラブルを回避することに力を入れ、小さなトラブルを見落としてしまい、リタイヤとなってしまいました。来年度は、大きなトラブルから小さなトラブルまで気を配ってほしいと思います。また、今後も様々な壁に突き当たることと思います。最後まであきらめずに楽しく続けてもらいたいと思います。

最後に、大学関係者様、スポンサー企業様など、多くの方のご協力のおかげでこの活動に参加することができました。活動を通して多くのことを学ぶことができ、価値ある大学生活を送ることができたと感じています。ありがとうございました。今後とも自動車部へのご支援のほどよろしくお願い致します。



## 鳥人間コンテスト2013を振り返って

鳥人間を目指す飛行機研究会 部長 原田 和真 (機械工学科2年)

### ★大滑空大フライト!!

平成25年7月27日(土)に滋賀県琵琶湖で開催された「鳥人間コンテスト2013」に出場し、無事フライトを終えました。飛行距離の記録は186m。私たちの出場した滑空機部門では19チーム中7位という成績でした。この成績は今までの私たちのチームにおける最高記録89mを大きく上回る記録で、大会に来てくれたOBの方たちにも喜んで頂くことができました。

大会までの活動を振り返ってみると、春休みからフルスロットルで活動しました。ほとんど何もわからない状態で部長を任せ、駆け抜けるように作業を進めていきました。私の至らなさで先輩方や後輩、先生方、多くの方々に迷惑をかけてしまうこともありました。辛かったことも色々ありましたが、機体が飛んだ時の達成感言葉にできませんでした。

今回学べたことは数多くあります。また反省すべき点多々ありました。次回、再度鳥人間コンテストに出場できるなら、今回学んだこと、反省点を私たちの血肉と

し、記録更新を目指していきたいと思っています。

最後に、今回の大会でのフライトは、数多くの方々の助けがあってこそだと思います。ずっと迷惑をかけたばなしでしたが、最後まで助けて頂きありがとうございました。



### 編集後記

やらまいか創造工学センター開所式、静岡県と袋井市との連携協定の締結、お理工塾イベントなど、地域と大学の協力関係について特集しました。互いにアイデアを出し合っただけで様々な問題や課題を改善するための枠ができましたが、これには学生を巻き込まなくてはなりません。今後、学生達が地域でリーダーシップを取っていく姿が楽しみです。(N)

### 静岡理科大学キャンパスニュース

平成 26年 1月 31日発行

企画・編集・発行/静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢 2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@ob.sist.ac.jp

